

資料 1

399-9393 長野県北安曇郡白馬村大字北城 7025 番地

電話 0261-85-0713

Fax 0261-72-7001

hukushi@vill.hakuba.lg.jp

デマンド型乗合タクシー運行事業 運行状況報告書

平成 29 年度

本報告書は、平成 29 年度における登録者、運行、利用、収支等の状況のほか、アンケート調査の結果をまとめたものです。。

目次

目次

1. 運行概要	1
(1) 運行目的	1
(2) 運行期間	1
(3) 運行方式	1
(4) サービス内容	1
(5) 予約方法	2
2. 登録者の状況	3
(1) 登録者数	3
(2) 登録に対する利用の割合	4
3. 運行の状況	5
(1) 対象期間及び運行日数	5
(2) 乗客数	5
(3) 走行距離	6
(4) 運行便数	7
(5) 予備車両の運行便数と予定運行時間を超過した便数	8
4. 利用の状況	9
(1) 曜日別にみた乗客数	9
(2) 便別にみた乗客数	10
(3) 年代別にみた乗客数	11
(4) 目的地別にみた乗客数	12
5. 収支の状況	14
(1) 収支の状況	14

目次

6. 運転免許証自主返納支援事業	15
(1) 運転免許証自主返納支援事業	15
7. アンケート調査の結果	16
(1) 調査概要	16
(2) 主な項目の集計結果	17
(3) 調査結果から	21

1. 運行概要

1. 運行概要

(1) 運行目的

主に高齢者や自動車運転免許を持たない移動制約者の買い物、通院などの交通確保と社会参加を促進するためにデマンド型乗合タクシーの運行事業を実施し、多くの村民にとって快適で安らぎのある生活環境の整備に資することを目的とする。

(2) 運行期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(3) 運行方式

事業主体／白馬村

運行主体／アルプス第一交通株式会社、アルピコタクシー株式会社、白馬観光タクシー株式会社（村内タクシー事業者）

運行方法／フルデマンド型の乗合タクシーで戸口から戸口までの運行を行う。ただし、予約がない場合は運行しない。なお、常備車両の旅客定員を超える予約がある場合は予備車両により対応する。

基軸路線／北方面行き（国道148号）佐野 ⇒ 飯田 ⇒ 白馬町 ⇒ 新田
南方面行き（国道148号）新田 ⇒ 白馬町 ⇒ 飯田 ⇒ 佐野

(4) サービス内容

利用対象者／乗合タクシーを利用することができる者は、白馬村に住所を有する者[※]で、次の項目のいずれかに該当し、自分で（付添人の力を借りて）乗降できる者とする。なお、利用にあたっては、事前の登録を必要とする。

※白馬村の住民票に記載されている者

イ 50歳以上の者

ロ 妊娠中の者

ハ 母子及び父子並びに寡婦福祉法に規定する母子家庭等

ニ 生活保護法の規定に基づく被保護者世帯

1. 運行概要

- ホ 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持する者
- ハ 障害基礎年金等の受給者
- ト 介護保険法に規定する要介護認定者及び要支援認定者
- チ 前イからトの利用者に付き添う者

運行日／月曜日から金曜日まで（祝日及び12月29日から1月3日までを除く）

運行時間／

午前 (北方面行き・南方面行き)	午後 (北方面行き・南方面行き)
8 : 15	12 : 40
9 : 15	13 : 40
10 : 30	15 : 00
11 : 30	16 : 00

運賃／

- イ 普通運賃／村内全域 1乗車300円
(3歳未満児(4月1日に3歳に達していない者)は無料)
- ロ 割引制度／回数券割引 11枚綴り3,000円

(5) 予約方法

予約方法／予約センターへの電話による予約（聴覚に障害のある者はファクシミリで予約）

利用希望日の2日前（運休日を除く）から利用希望便の出発時刻の30分前までに予約
(ただし、始発便の予約は前日まで)

予約センター／白馬村社会福祉協議会事務局内

開設時間／平日の午前8時30分から午後5時00分まで

住所／白馬村大字北城7025番地

TEL／(0261)71-1111

FAX／(0261)71-1113

2. 登録者の状況

2. 登録者の状況

(1) 登録者数

登録者数／711人

平成29年度末の登録者数は、登録抹消者数（14名）を新規登録者数（25名）が上回ったため、前年度比で11名の増加となる711名でありました（表1）。

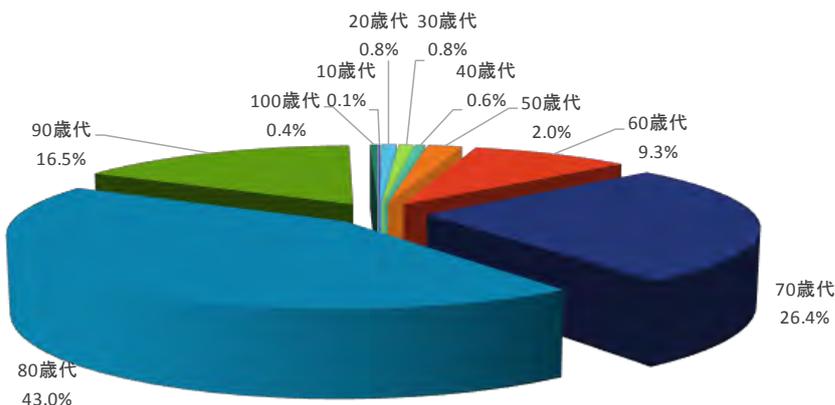
登録者数を年代別にみると（図1）、60歳代以上が大半（95.6%）を占めており、80歳代の登録者が最も多く（43.0%）なっています。

年代別人口に対する登録の割合は、70歳代が18.0%、80歳代が48.8%、90歳代が60.6%となっており、年代が上がるにつれて登録の割合も増加しています。

表1 平成29年度末の登録者数 (単位：人)

	年度末登録者数	新規登録者数	登録抹消者数	増減
男性	198	8	2	+6
女性	513	17	12	+5
計	711	25	14	+11

図1 年代別登録者

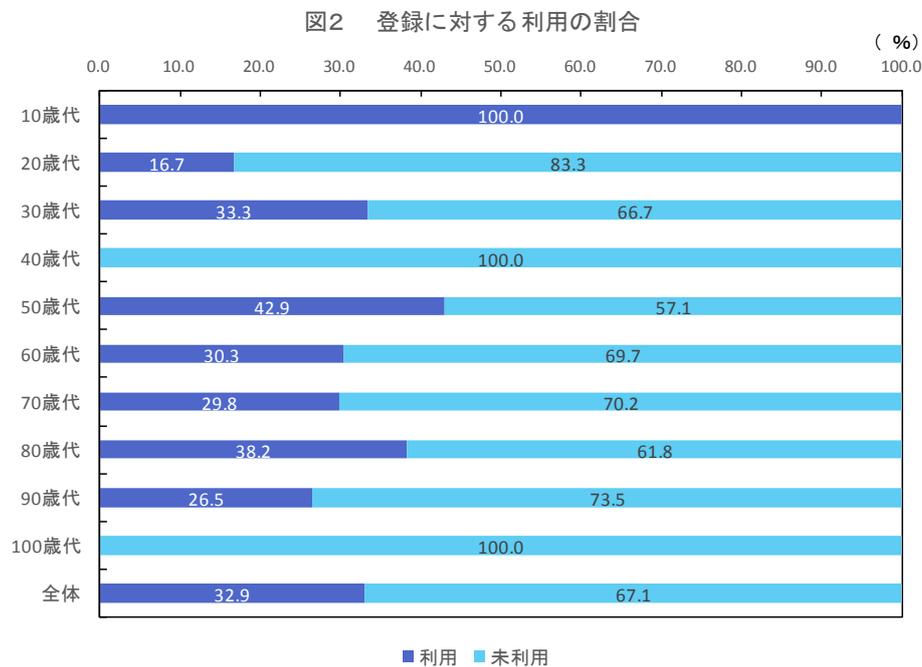


2. 登録者の状況

(2) 登録に対する利用の割合

登録に対する利用の割合をみると（図2）、全体では32.9%にとどまっています。登録者の多い年代では、70歳代が29.8%、80歳代が38.2%、90歳代が26.5%となっています。

年代別人口に対する利用の割合は、70歳代が5.4%、80歳代が18.7%、90歳代が16.1%となっています。



3. 運行の状況

3. 運行の状況

(1) 対象期間及び運行日数

対象期間／平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

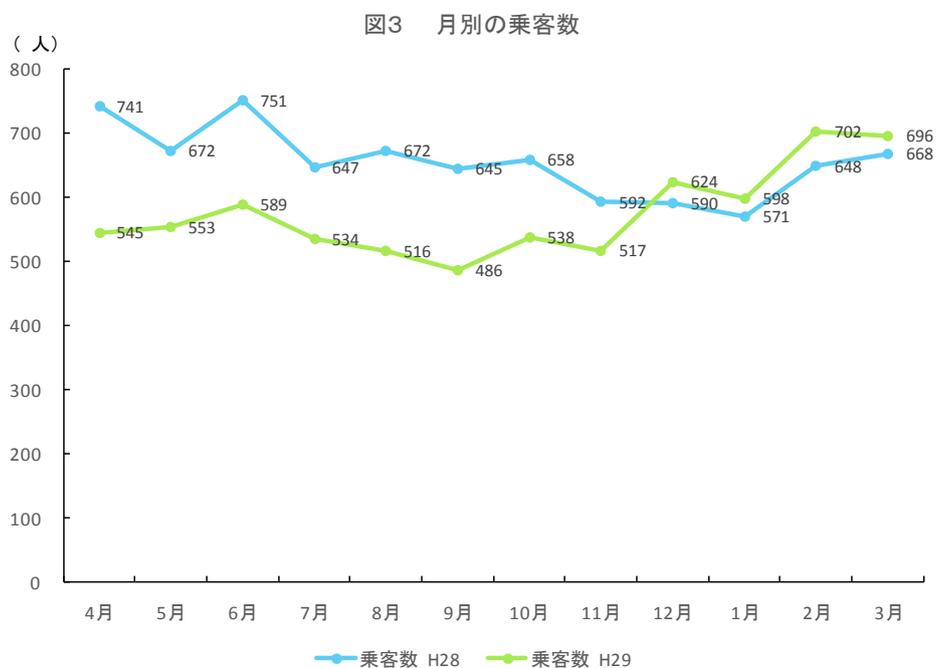
運行日数／244日

(2) 乗客数

乗客数／6,898人

平成29年度における乗客数は6,898人で、前年度比で957人の減少となりました。月別の乗客数をみると（図3）、冬期（12月～3月）の乗客数は前年度を上回っているものの、冬期以外の乗客数は軒並み減少しています。

11月まで低調であったものが、12月になって前年度を上回るまでに回復した背景には、冬期間は道路状況が悪化するので運転を控えたり、送迎する家族が多忙であったりといったことがあるのではないのでしょうか。

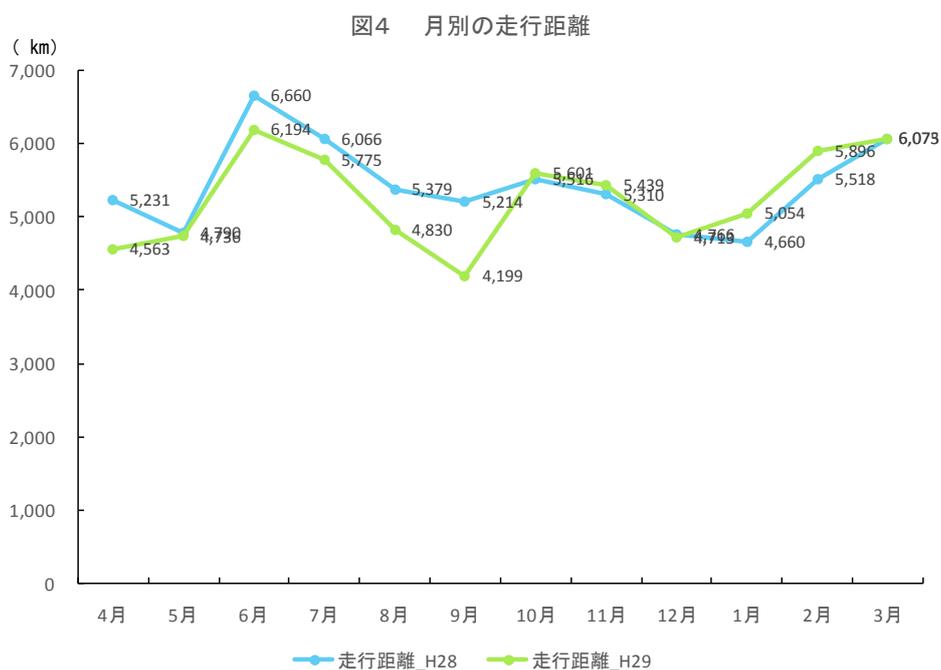


3. 運行の状況

(3) 走行距離

走行距離 / 63,073 km

走行距離は63,073 kmで、前年度比で2,112 kmの減少となりました。乗客数の少なかつた9月の走行距離の減少幅が大きくなっています(図4)。ただ、全体としてみれば、月別の走行距離は乗客数の多寡によらず、前年度と同様の動きとなっています。



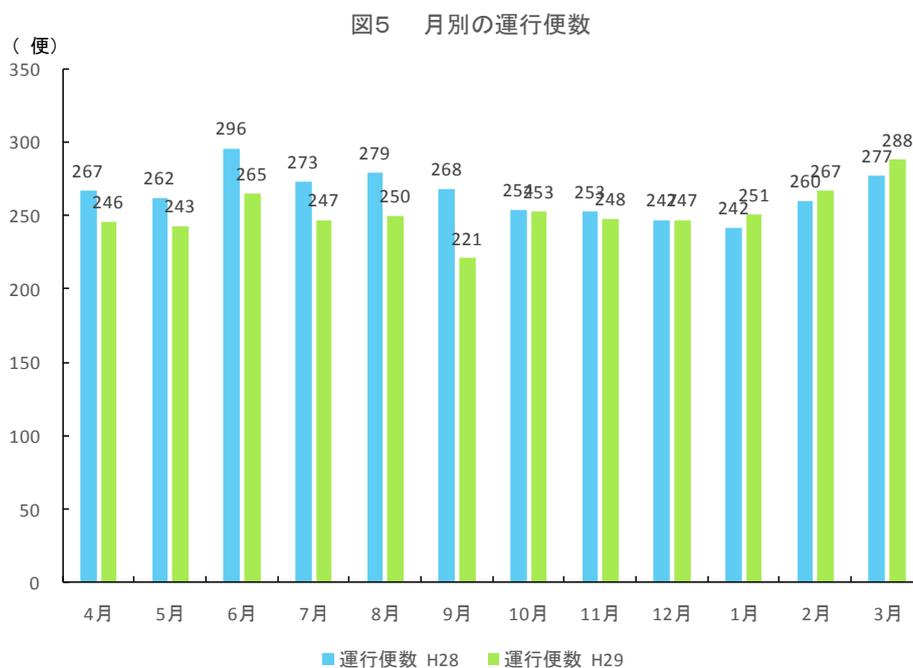
3. 運行の状況

(4) 運行便数

運行便数／3,026便

運行便数は3,026便で、前年度比で152便の減少になりました。月別の運行便数をみると(図5)、上半期(4月から9月まで)の運行便数の減少が顕著であり、この期間は予約がないために運行しなかった便が多かったこととなります。

平成29年度中に運行しなかった便の総数は878便で、その内の512便は上半期であり、特に8:15便と16:00便の運行休止が目立っています。



3. 運行の状況

(5) 予備車両の運行便数と予定運行時間を超過した便数

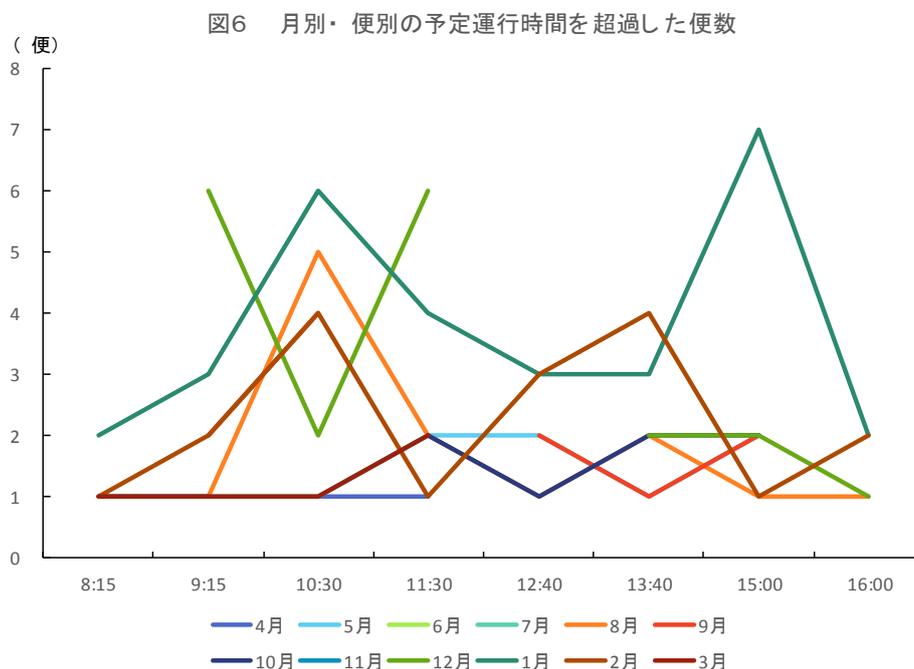
デマンド型乗合タクシーは、予約状況によって乗車や降車の時刻が流動的になってしまいます。そのため、運行会社には出発時刻から最後の乗客の降車時刻までを40分以内にするように指示しており、予定運行時刻が40分を超えると予想される場合には、予備車両を運行しています。

予備車両の運行便数 / 136便

予備車両の運行便数は136便で、前年度比で64便の減少になりました。予備車両は、乗客数が多くなる冬期（12月～3月）に集中しており、この期間における予備車両の運行便数は70便です。

予定運行時間を超過した便数 / 132便

予定運行時間を超過した便数は132便で、前年度比で22便の減少になりました。これを月別にみると（図6）、1月に予定運行時間を超過した便が多くなっています。予備車両は運行するものの、道路状況や交通事情により予定運行時間を超過してしまうことがあるようです。



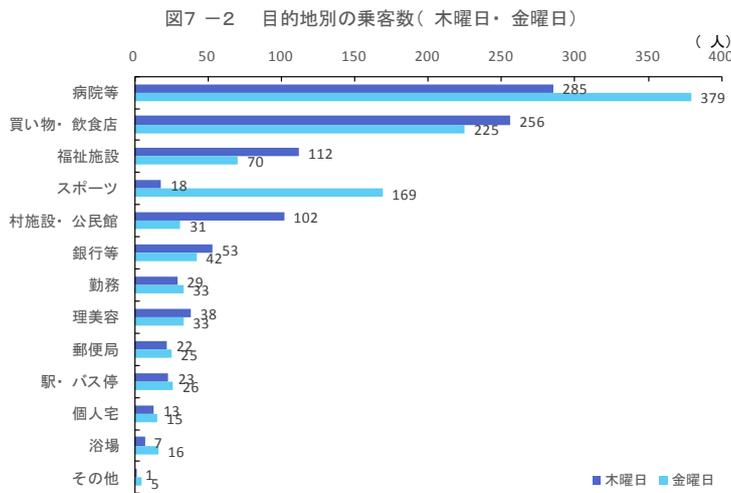
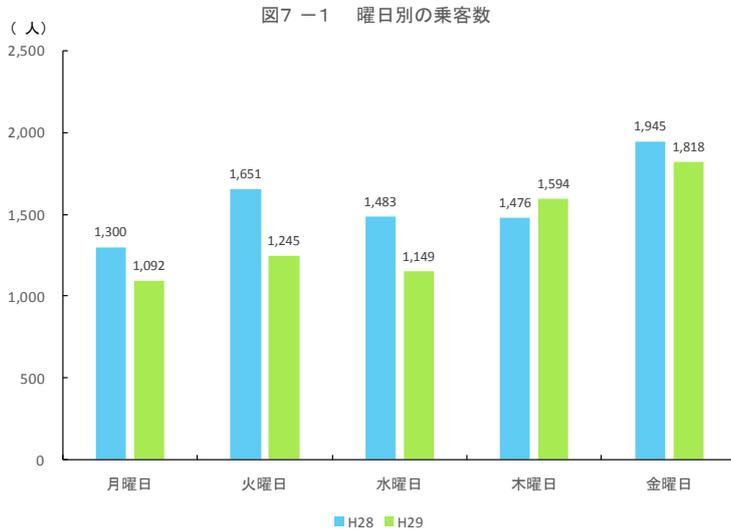
4. 利用の状況

4. 利用の状況

(1) 曜日別にみた乗客数

曜日別の乗客数をみると（図7-1）、金曜日の乗客数が最も多い状況に変わりはありませんが、乗客数が減少した中、木曜日のみが前年度を上回っています。

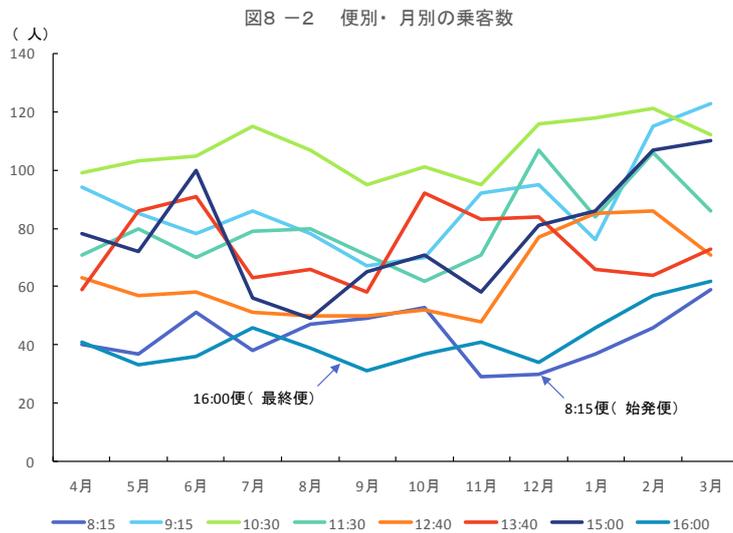
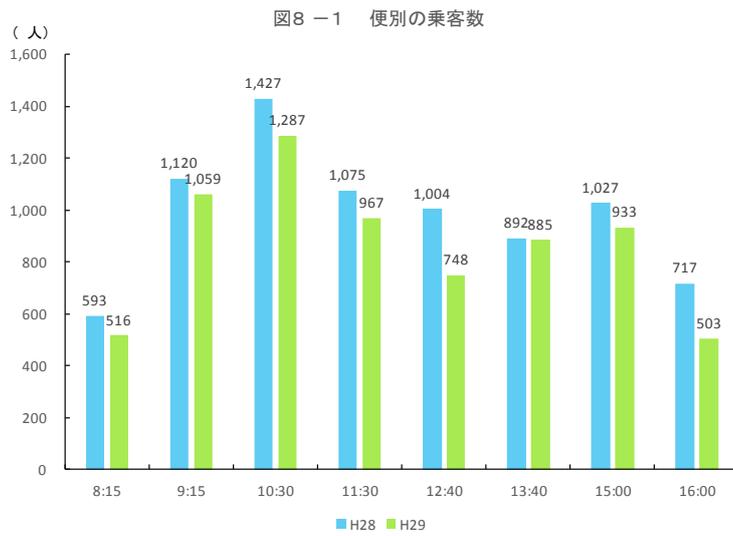
木曜日と金曜日に限って目的地別の乗客数をみると（図7-2）、いずれも病院等を目的地とする乗客が最も多くなっていますが、木曜日は買い物・飲食店、福祉施設、村施設・公民館を目的地とする乗客も多く、金曜日はスポーツを目的地とする乗客が多い傾向にあります。



4. 利用の状況

(2) 便別にみた乗客数

便別の乗客数の利用傾向に大きな変化はありません。最も乗客数が少ない便は16:00便（最終便）で、8:15便（始発便）が次いでいます（図8-1）。両便の利用は、他の便に比べて年間を通して低調な状況にあります（図8-2）。

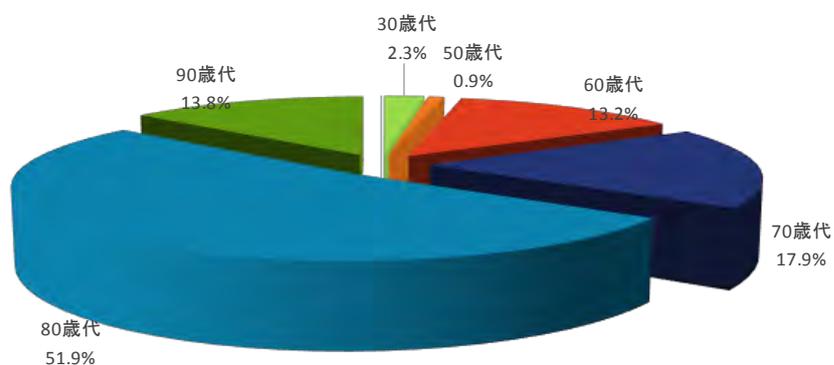


4. 利用の状況

(3) 年代別にみた乗客数

乗客数を年代別にみると（図9）、60歳以上の乗客が大半を占めており、80歳代の乗客が51.9%と最も多くなっています。

図9 年代別の乗客数

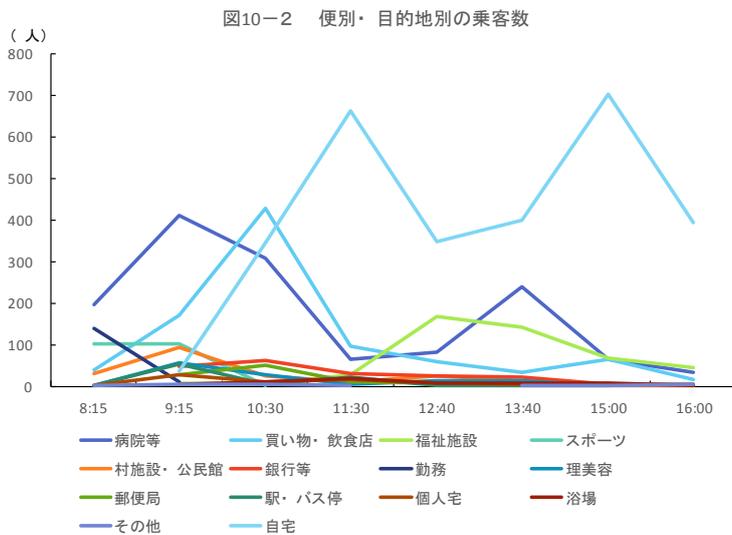
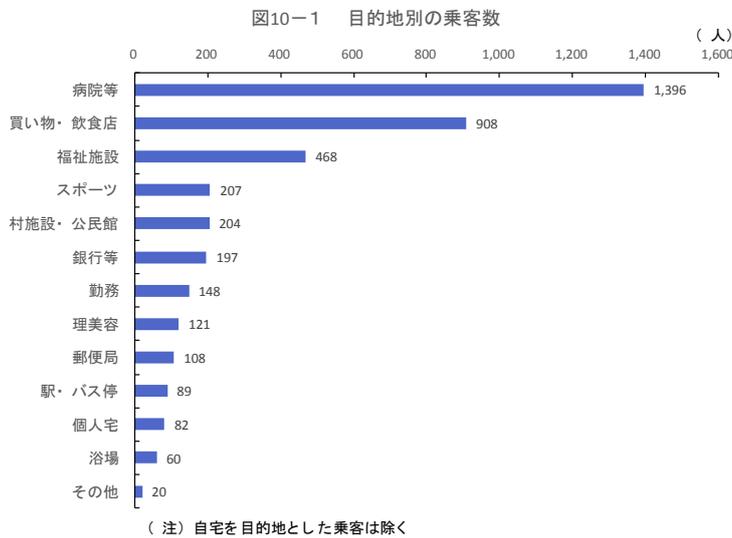


4. 利用の状況

(4) 目的地別にみた乗客数

乗客数を目的地別にみると（図10-1）、病院等を目的地とする乗客が最も多くなっています。また、買い物のほか、スポーツや浴場といったリフレッシュを目的とした外出や、銀行や郵便局など日常生活の中で幅広く利用されていることがわかります。

図10-2をみると、病院等を目的とする利用が多い9：15便、買い物・飲食店と病院等を目的とする利用が多い10：30便、11：30便以降は自宅への利用（帰路）が多いといったように、便ごとの目的地には特徴があることがわかります。また、自宅への利用（帰路）は11：30便と15：00便の二つにピークがあることもわかります。



4. 利用の状況

さらに、降車の多かった上位7箇所を便別にみると（表2）、あづみ病院白馬診療所では午前の診療に合わせる8：15便と9：15便、午後の診療開始に合わせる13：40便の利用が多くなっています。このほかの病院では、午前の9：15便又は10：30便を利用する傾向にあります。

また、アップランド白馬店やA・コープ白馬店（ハピア）、ザ・ビッグ白馬店といった商業施設では午前の便、特に10：30便の利用が多くなっています。

白馬メディアでは12：40便と13：40便、スポーツアリーナ（屋内ゲートボール場）では8：15便と9：15便に利用が集中しています。白馬メディアでは火曜日の午後に高齢者向けの体操教室が、ゲートボール場では金曜日の午前に村ゲートボール同好会の活動が定期的に行われています。

表2 降車の多かった上位7箇所

（単位：人）

	8:15	9:15	10:30	11:30	12:40	13:40	15:00	16:00
あづみ病院白馬診療所（568）／病院等	149	135	52	25	51	109	18	29
白馬メディア（456）／福祉施設		3	5	28	169	137	69	45
アップランド白馬店（330）／買い物・飲食店	37	11	213	20	17	2	27	3
A・コープ白馬店（ハピア）（270）／買い物・飲食店		94	84	33	26	11	20	2
横沢医院（223）／病院等	20	90	59	5	1	33	13	2
スポーツアリーナ（屋内ゲートボール場）（204）／病院等	99	103	2					
ザ・ビッグ白馬店（167）／買い物・飲食店		28	86	22	6	11	7	7

5. 収支の状況

5. 収支の状況

(1) 収支の状況

平成29年度の収支の状況をみると、運行委託料をはじめとする支出額12,042千円に対して、使用料収入額が1,872千円であり、その差額にあたる10,170千円には一般財源（税収入）を充てています。

平成29年度は乗客数が減少したことから、使用料収入が前年度比で約300千円減少しています。支出の面では、燃料費が前年度比で132千円増加しています。これは燃料単価の上昇によるものです。

直近3年間の収支の状況に大きな変化はなく、年間に約240日、2台の乗合タクシーで1日に16便を運行するために、毎年約10,000千円の一般財源（税収入）を充てています。

(収入)

(単位：円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 使用料	2,302,200	2,171,700	1,872,300
計	2,302,200	2,171,700	1,872,300

(支出)

(単位：円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 運行委託料	9,420,494	9,560,239	9,440,660
2. 燃料費	1,502,406	1,556,765	1,688,887
3. 予約センター委託料	591,000	591,000	593,000
3. 受注・配車システム委託料	87,804	87,804	87,804
4. その他	237,347	153,543	232,160
計	11,839,051	11,949,351	12,042,511

(収支)

(単位：円)

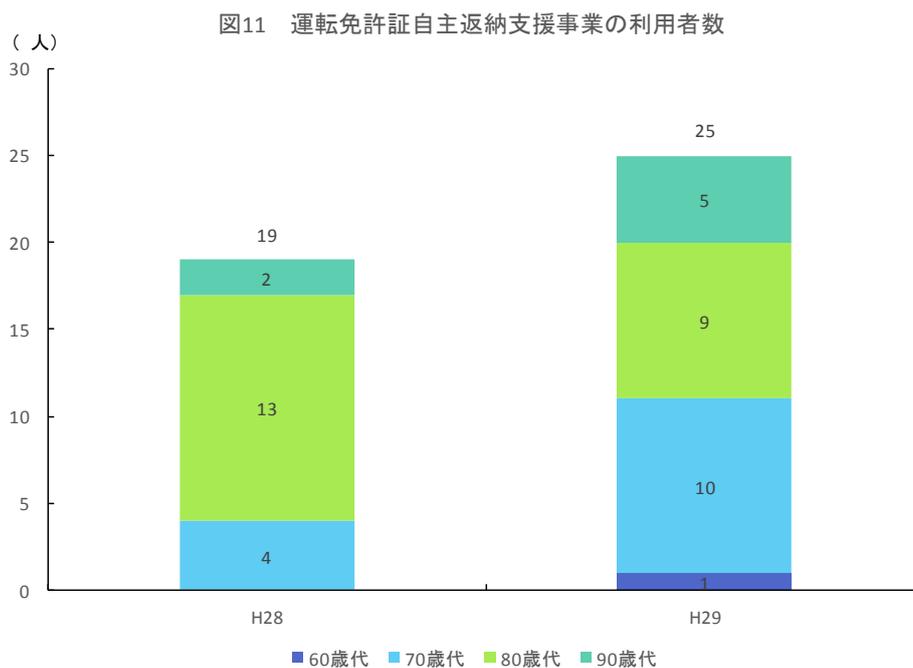
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
収入	2,302,200	2,171,700	1,872,300
支出	11,839,051	11,949,351	12,042,511
差引	△ 9,536,851	△ 9,777,651	△ 10,170,211

6. 運転免許証自主返納支援事業

6. 運転免許証自主返納支援事業

(1) 運転免許証自主返納支援事業

平成28年4月に開始した本事業は、高齢者等の交通事故を防止するための対策として、運転免許証を自主返納した者を対象に、1枚綴りの回数券3冊を1回に限り交付する事業です。平成29年度中に本事業を利用した者は25名で、年代別の内訳は図11のとおりでした。主に70歳代と90歳代の利用が増加したことから、前年度比で6名の増加となっています。大町警察署によると、平成28年12月からの1年間に運転免許証を自主返納した人数は28人です。同期間に本事業を利用した者は21名でしたので、自主返納者の3/4は本事業を利用していることとなります。



7. アンケート調査の結果

7. アンケート調査の結果

平成29年11月に乗合タクシーに関するアンケート調査を実施しました。ここでは、調査結果の概要を報告します。

(1) 調査概要

調査趣旨

デマンド型乗合タクシーは、運行開始から7年間で延61,000人余りに利用されている。多くの利用はあるものの、運行内容に関する様々な要望も聞かれる。

本調査では、運行内容に関する要望を把握するとともに、改善点を探り、これらを運行計画に反映することで、デマンド型乗合タクシーの総合的な満足度の向上を図ることを目的とする。

調査方法

調査時期／平成29年11月1日から11月30日まで

調査対象／平成29年9月19日時点で利用登録をしている者 674名

調査方法／郵送により調査票を配布、記入を依頼、記入済調査票は返信用封筒により返送

調査項目

回答者属性／性別、年齢、居住地区、同居家族

運転免許証／所有の有無

よく行く外出先／外出先、地域、施設名、時間帯

デマンド型乗合タクシー／利用経験の有無、運行内容に対する評価、始発便と最終便の運行時刻、土日・祝日の運行、総合的な満足度

村内の公共交通／巡回バスの運行

回答状況

回答総数／303票

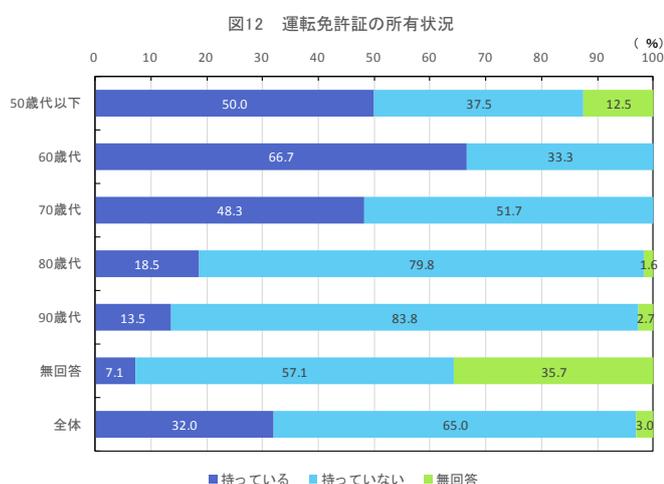
回答率／45.0%

7. アンケート調査の結果

(2) 主な項目の集計結果

運転免許証の所有状況

回答者の運転免許証の所有状況を見ると（図12）、運転免許証を所有している割合は全体で32.0%となっています。60歳代以上では年代が上がるにつれて所有割合が低くなっており、特に80歳代の約8割は運転免許証を所有していません。60歳代以上が乗客の大半を占めていて、80歳代の乗客が51.9%であることを考え合わせると、運転免許証を所有していない者にとって、乗合タクシーはなくてはならない交通手段であるといえます。



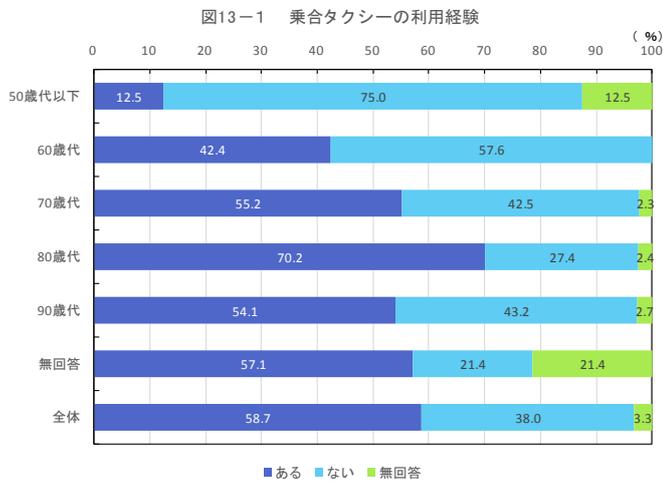
乗合タクシーの利用経験

乗合タクシーの利用経験をみると（図13-1）、回答者の58.7%は利用したことがあるものの、38.0%は登録のみで利用したことはありませんでした。

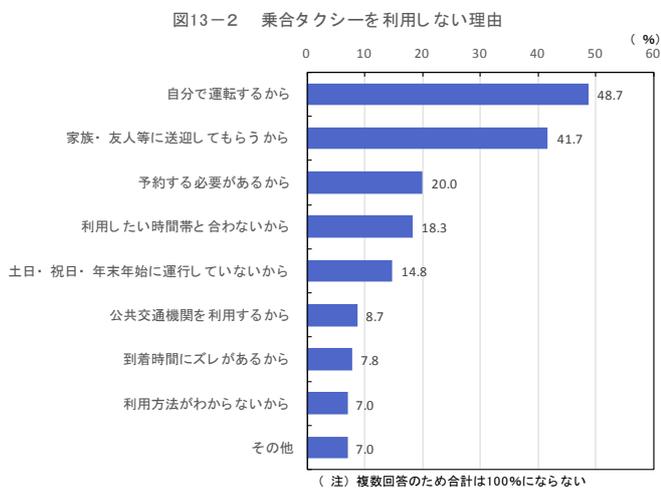
これを年代別にみると、60歳代から80歳代までは利用したことがある割合が徐々に高まることがわかります。加齢に伴い運転に対する不安が高まり、それに応じて、外出時に乗合タクシーを利用する機会が増加しているものとみられます。

なお、これを運転免許証の所有別にみると、所有している者の利用経験割合が35.1%であるのに対して、所有していない者のそれは71.6%でありました。

7. アンケート調査の結果



さらに、乗合タクシーの利用経験のない者にその理由を尋ねたところ、「自分で運転するから」（48.7%）や「家族・友人等に送迎してもらうから」（41.7%）といった交通手段を確保できるからとする回答が多い一方で、予約や運行時間、運行日といった運行内容に利便性が欠けるから利用しないとする者も一定程度いることがわかりました（図13-2）。



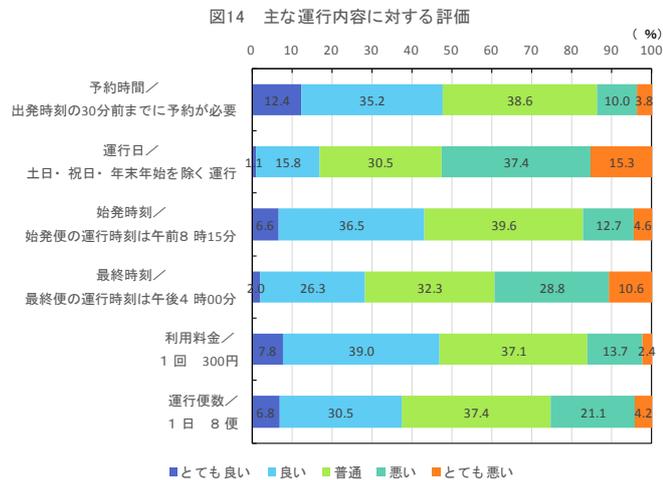
主な運行内容に対する評価

主な運行内容に対する評価をみると（図14）、予約時間や始発時刻、利用料金、運行便数に対する評価は、とても良い又は良いとする回答割合が、悪い又はとても悪いとする割合を上回っており、これらの項目は高い評価を得ていました。

一方、土日や祝日、年末年始を除いている運行日と、午後4時としている最終便の運行時刻の

7. アンケート調査の結果

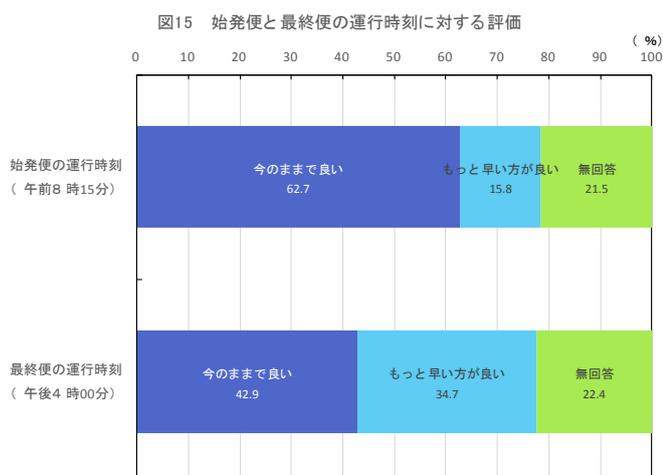
二つの項目では、悪い又はとても悪いとする回答割合が、とても良い又は良いとする割合を上回っていました。



始発便と最終便の運行時刻

始発便の運行時刻（午前8時15分）に対する評価は「今のままで良い」とする回答割合が6割を超えています。最終便の運行時刻（午後4時00分）に対する評価は回答者の3割超が「もっと遅い方が良い」と回答しています（図15）。

最終便の運行時刻に「もっと遅い方が良い」と回答した者に、希望する運行時刻を尋ねたところ、午後5時から午後6時の間に希望が集中していました。

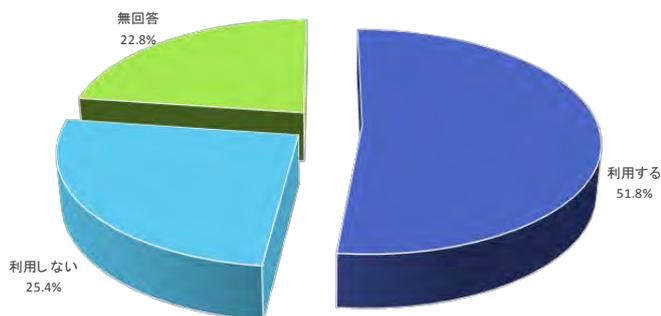


7. アンケート調査の結果

土日・祝日の運行

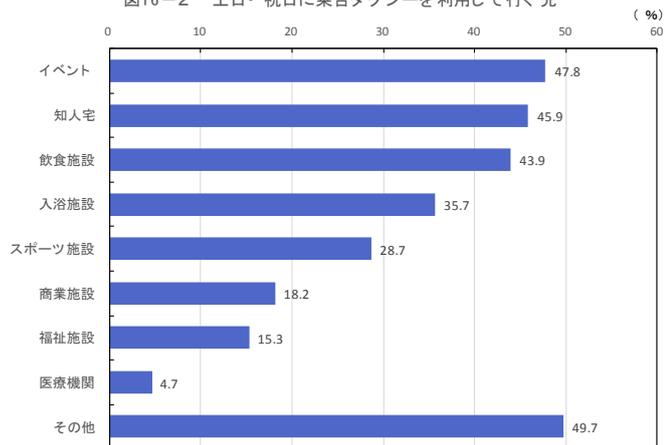
土日・祝日に乗合タクシーが運行された場合の利用意向について尋ねたところ、「利用する」との回答割合は51.8%であり、それほど高いといえる結果ではありませんでした（図16-1）。

図16-1 土日・祝日に運行された場合の利用



さらに、土日・祝日の乗合タクシーを「利用する」と回答した者に、どこへ行くときに利用するのかを尋ねたところ、イベントや知人宅、飲食施設、入浴施設と回答する者が多く（図16-2）、これは、病院等を目的とする利用が最も多い平日運行における利用状況とは明らかに違う傾向となっていました。

図16-2 土日・祝日に乗合タクシーを利用して行く先



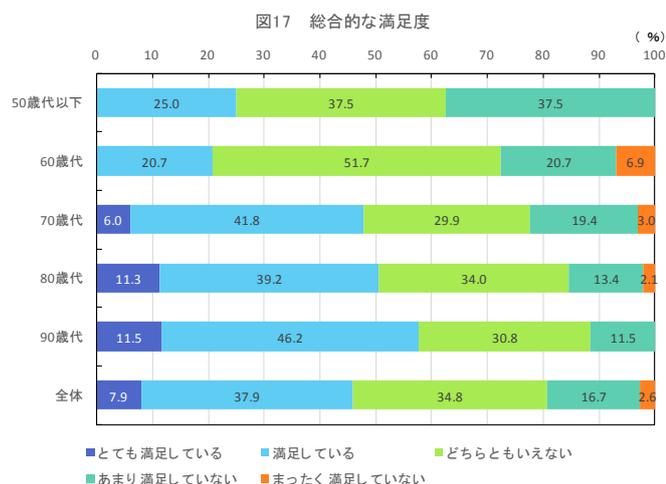
(注) 複数回答のため合計は100%にならない

総合的な満足度

総合的な満足度をみると（図17）、全体ではとても満足している又は満足しているとする回答割合が45.8%であるのに対して、あまり満足していない又は満足していないとする割合は1

7. アンケート調査の結果

9. 4%となっており、前者が後者を大幅に上回っていることから、総合的な満足度は高いとみることができます。特に、70歳代以上の満足度は高く、年代が上がるにつれて満足度も高くなっていることがわかります。



(3) 調査結果から

移動制約者の交通確保と社会参加

乗合タクシー運行事業の一義的な目的は、移動制約者の交通確保と社会参加を促進することです。利用状況やアンケート調査の結果からは、十分にその役割を果たしているといえます。

最終便の運行時刻

最終便の運行時刻に対しては、「もっと遅い方が良い」という希望が多く、実際利用の状況も年間を通して低調であることも考え合わせると、最終便の運行時刻は変更すべきであるといえます。

土日・祝日の運行

土日や祝日の運行を求める声は確かにあります。ただ、実際に運行した場合を想定すると、それほど多くの利用はなく、むしろ運休ばかりが目立つ状況になりかねない、ということがわかります。

資料 1

399-9393 長野県北安曇郡白馬村大字北城 7025 番地

電話 0261-85-0713

Fax 0261-72-7001

hukushi@vill.hakuba.lg.jp

